

信濃川と ともに 暮らす カタチ

まわりにとけこむかたち（その2）

燕市で現在建設中の大河津可動堰。この大プロジェクトもまわりとの調和を図りながら工事が進められています。

新 大河津可動堰

大河津可動堰とは？

現在の大河津可動堰は昭和6年に完成しました。約70年余り私たちの暮らしを守り続けてきた大河津可動堰ですが、老朽化が進んだため、新しく造り直しています。周辺の工事が残っていますが、本体の工事は完成しました。

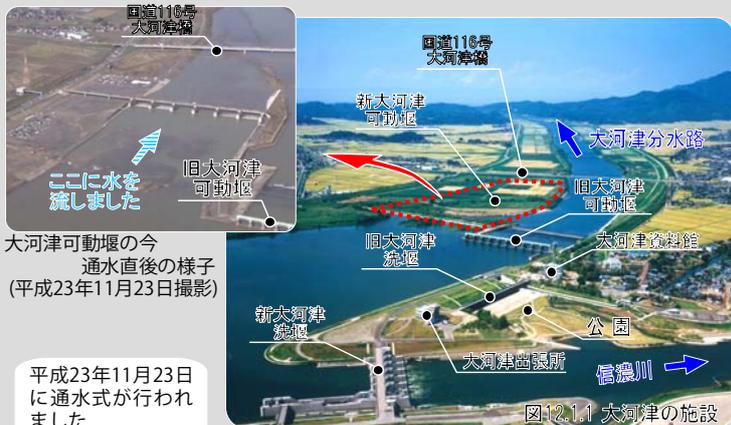


図12.1.1 大河津の施設

大河津可動堰の今
通水直後の様子
(平成23年11月23日撮影)

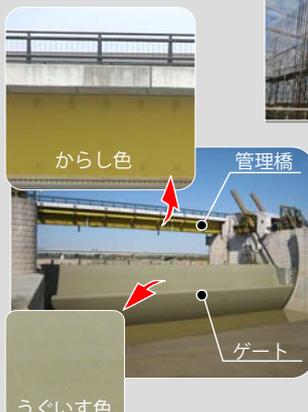
平成23年11月23日
に通水式が行われ
ました

新 大河津可動堰 通水



ゲートが開き、新しい堰に勢い良く水が流れ込んだ瞬間、あちこちから歓声が上がりました。

図12.1.5 通水式での現場一般開放の様子



うぐいす色

旧 大河津洗堰

旧大河津洗堰は大正11年(1922)に完成しました。そして、約80年後の新しい大河津洗堰の完成とともにその役割を終えました。

現在、公園として整備されています。



図12.2.1 旧大河津洗堰の今昔

大河津可動堰 まわりにとけこむかたち

大河津分水路周辺は弥彦山を背景に豊かな田園地帯が広がり、その中を信濃川が流れています。周辺には桜並木などの自然の他、新・旧洗堰、西川水門、大河津資料館等があり、これらの自然や周辺環境との調和を図るよう決定しました。

【可動堰の表面】

可動堰と対を成す改築済みの洗堰と統一感をもたせています。コスト削減のため、洗堰に使用した桜御影石（自然石）の色調・風合いをコンクリートで出すように工夫しています。



図12.1.2 大河津洗堰の表面



桜御影石調の化粧型枠

化粧他枠を使用し施工された可動堰堰柱 図12.1.3 大河津可動堰の表面

【ゲート・管理橋（桁）】

現地周辺の景観（色調）を調査、それぞれの色調の方向性を決定し、CGによるフォトモンタージュを作成して検証しました。「現可動堰がはぐくんできた弥彦山をはじめとした美しい四季の田園風景や洗堰との景観調和を図る。」を基本コンセプトに暖色系で2案を作成し、地域の皆さんから意見をもとに「色」を決定しました。

- A案/管理橋：からし色、ゲート：うぐいす色
- B案/管理橋：うぐいす色、ゲート：こげ茶色



図12.1.4 ゲート、管理橋の色

位置図

